９．研究組織

基本的には、『各分科会』での研究が主になります。
第５５回埼玉大会では、

> ○全県を各教育事務所ごと　東・西・南・北・さいたま市の５ブロックにした。
> ○分科会を９分科会とした。
> 各ブロックには、技術分野と家庭分野の２分科会を割り振っていく。
> 技術分野のＡＢＣＤ、家庭分野のＡＢＣＤを重ならないように分ける。

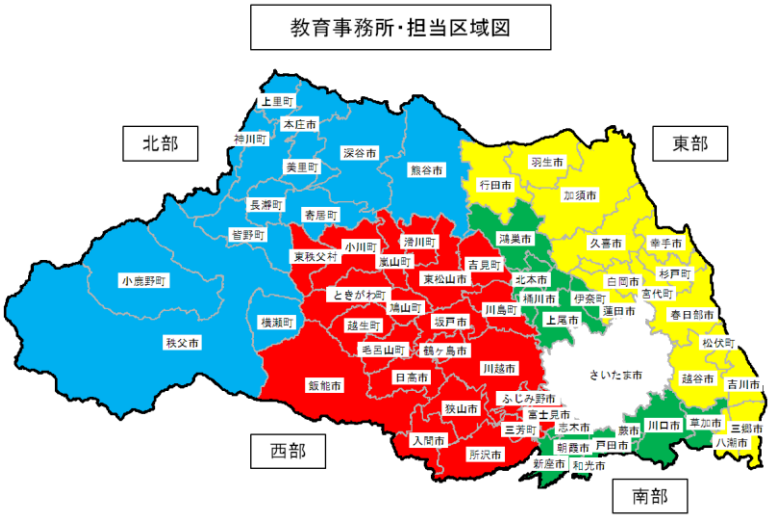
例年２月に開催されている「教員研究発表会」や支部ごとに開催されていた「授業研究会」も、平成２５年度までは各分科会単位での発表がメインになります。また、各支部からご選出いただいた技術・家庭科員で構成される『県の専門委員会』（年 3 回開催）では、『技術分野・家庭分野　各常設の５分科会』（指導内容ごとにグループ編成したもの「技術分野：Ａ材料と加工に関する技術、Ｂエネルギー変換に関する技術、Ｃ生物育成に関する技術、Ｄ情報に関する技術」、「家庭分野：Ａ家族・家庭とこどもの成長、Ｂ食生活と自立、Ｃ衣生活・住生活と自立、Ｄ身近な消費生活と環境」、と「教育課程」）と並行して、平成２５年度まで特設の形で『授業研究部会』（２部会）を設置していく予定です。

『常設の５分科会』におきましては、各分科会から提案された資料の検討や、理論構築ための研究を推進していただきます。例年「教員研究発表会」でご提案いただいておりしたが、平成２５年度までは『各分科会』の発表が主となりますので、ご提案や研究紀要の執筆はございません。

特設の『授業研究部会』は、「指導法部会」「授業診断部会」の２つの部会で構成する予定です。
この部会は、『各分科会』で人数を調整し、それぞれの部会の数がほぼ均等になるように編成していただきたいと思います。（第１回専門委員会にテーマの提案、組織の提案をして確認が取れ次第、各支部で検討していただき、２月の教員研究発表会までに県の事務局までご連絡いただければ「研究の手引き No. ２」の所属部会の提案ができますのでよろしくお願いします。）

「授業研究部会」では、関プロのプレ発表及び本発表に向けて、『各分科会』が研究推進するための基礎となる研究を進めていただきます。

「指導法部会」では、昨年度まで研究してきた「３学年間を見通した指導計画」、「工夫し、創造」を育てる活動にポイントを置き、手引に掲載した参考資料などを活用しながら、『各分科会』から提案された資料の検討をお願いいたします。また、指導方法、学習方法、学習形態、評価方法、教材・教具なについて研究を進めていただきます。

「授業診断部会」では、生徒や保護者の実態把握、レディネス把握のためのテストやアンケナト調査用紙の開発など）、授業分析及び診断、授業後の生徒の変容の把握（「生き抜く力」が身についたかどうか）などについて研究を進めていただきます。
また、「８、分析・考察の方法について」を参照しながら分析・考察を推進していただきたいと思います。

いずれの部会も、中学校技術・家庭科研究紀要（次年度のはじめに発行）をまとめる際、県として各分科会の整合性を図るために、統一しておきたい内容に関しての文章を執筆していただきますのでよろしくお願いいたします。